

平成27年第4回

仙南地域広域行政事務組合
教育委員会定例会会議録

平成27年11月30日開議

平成27年第4回仙南地域広域行政事務組合教育委員会会議録

1. 召集日時 平成27年11月30日（月） 午前10時00分
2. 召集場所 仙南地域広域行政事務組合3階研修室
3. 出席委員 教育長 佐藤隆夫, 委員 川島陽子, 委員 佐山富夫, 委員 佐藤芙貴子,
委員 佐藤茂廣
4. 説明のため出席した者
教育次長兼仙南芸術文化センター所長 水戸雅彦
主幹兼教育係長兼文化振興係長 黒澤良, 主事 二階堂美和子
5. 開 会 午前10時00分

6. 平成27年第3回教育委員会定例会会議録の承認について

佐藤教育長	会議録について承認を求めます。質疑はないですか。
(質 疑)	<はい>との声
佐藤教育長	質疑ないものと認め、会議録を承認します。

7. 会議録署名委員の指名

佐藤教育長	私のほか、佐藤茂廣委員にお願いいたします。
佐藤(茂)委員	はい。

8. 諸報告

報告第1号 仙南地域広域行政事務組合教育委員会委員の就任について

仙南地域広域行政事務組合教育委員会委員の任命に平成27年10月30日、当組合第227回議会定例会において、佐山富夫角田市教育委員会教育長を任命することに同意を得たことをご報告申し上げます。なお、任期は平成27年10月30日から平成28年3月31日までである。

佐山委員	只今、報告ありましたが、10月30日付け、第227回議会におきまして、新しく教育委員を拝命いたしました佐山富夫でございます。情報とか交通インフラというのはですね、発達拡充していて、教育課題というのも大変多様化してきた時代となりました。それに対応するには、広域で長期のスパンで、我々は教育行政の課題に対応していかなければならないと思います。そういう時代になって、今回拝命したことは本当に、大変身も引き締まる想いです。駆け出しですので、何も分かりませんので、皆様のご指導を頂きながら、自分の使命を果たしていきたいなと思います。よろしくお願ひ申し上げます。
------	---

報告第2号 平成27年10月から同年11月までの主な事業等の経過について

教育委員会事業及び仙南芸術文化センター事業について、水戸教育次長より資料1にてご説明申し上げます。

(質 疑)	
佐藤(茂)委員	3頁の出前講座ありますよね。蔵王町のざおうの杜と書いてあったので、今興味持って見てたんですけども、これは入所者対象なんですか。それとも事務担当の方たちが対象。
二階堂主事	職員さんが敬老会に向けて動画を作りたいということ。

佐藤(茂)委員	もし入所者のあれだったらすごいなと思って。
佐藤教育長	他に何かありませんか。
佐山委員	はい。
佐藤教育長	はい。佐山委員。
佐山委員	そのところのすぐ下なんですけど、高齢者パソコンってありますよね。これって何歳からあるんですか。
教育次長	中央公民館は何歳からだっけ。これは大河原の中央公民館でやっております。高齢者向けの講座があるんですが、その1コマにお邪魔した形です。正式なところは把握していない部分もあるんですが、所謂その高齢者向けですので60歳以上の方々が対象になっているかと思います。
佐藤教育長	では、私からですけど。委員の皆様方でね、各教育委員会でタブレットとかって使って、始めているところはありますか。
川島委員	白石はあります。タブレット。
佐藤教育長	中学校でですか。
川島委員	小学校も中学校も可能ですが、ベーススクールは白石中学校。そこに2クラス分揃えています。最初1クラス分。次の年にもう1クラス分で自由に貸出OK。借りたい学校は、借りたい数だけ借りていくというシステムですね。
佐藤教育長	そこは、あのメディアでしたっけ。メディアテーク。
川島委員	あその、アテネ。アテネは介さないんです。
佐藤教育長	アテネではなくて、白中の中に置くことに。活用はしていませんか。
川島委員	そうです。下にちょっとパソコンの指導してくれる場所はありますが、あとはアニメーションの会社に大きく貸して、自由に使える部分はあるんですが。あまり役割は大きくはないですね。
佐藤教育長	そうしますと、この2クラスをもって自由にとという形で、その白石中学校で全部管理しているわけですね。
川島委員	全部管理している。
佐藤教育長	他の教育委員会でタブレットないですか。つまり我が情報関係の視聴覚教材センターでも、そういう最先端のものにも視野を広げていく必要があるのかなと、今考えていたんですけども、今までですと、ここにもございますようにプレゼンテーション講座ってあるんですね。これはたぶんパワーポイントで発表するプレゼンの仕方。それから、ビデオ編集。映像で録画してドラマを作ったり、あるいはコマースャルを作ったり、あるいはプレゼンするための映像をうまく繋いでいく編集をするための勉強をする。それから、高齢者パソコンというのは、写真を落としたり、画像を落としたりするというのをやる。そういうこと他にはですね、それじゃちょっと難しすぎるかもしれないのですが、皆さんのお知恵をお借りしながら、スタッフも限られてますから、予算も限られてますので、10枚20枚と買うわけにはいかないので、各市町で揃えているところに、出前講座とかアウトリーチするとかいうことになると思うんで。ただ、ここで指導者なんですけども、二階堂さんはタブレットとかスマホは使ってますか。
二階堂主事	多少ですね。多少です。
佐藤教育長	水戸次長は。

教育次長	私はやっていないです。
佐藤教育長	黒澤君あたりは。その下の年代かな。
教育次長	そうですね。タブレットはまだ深くやっている者はいないんですけども。
佐藤教育長	予算化した方がいいのかというところも含めて、ご意見たまわっていきたいと思いますので、どうぞよろしくをお願いします。
佐山委員	宮教大に、先週その前に大学の方に行ったんですけど、タブレットをもう使っているのは、宮教大では全員ですね、全員使っていますね。親の方がもう先行して先生方が後から付いてくるというのではまずいので、それで授業をやっているですよ。確かに見事でした。無駄な時間がほとんどないですね。先生が黒板に向かって書いている時間がまったくないですね。ぽーんと打つだけで、全部出ますので。これはすごい時間の。
佐藤教育長	講義の内容ですか。
佐山委員	いや、授業を直接見て来たんです。授業はね、英語の教科拠点の授業だったんですよ。
佐藤教育長	付属じゃなくて。
佐山委員	付属です。大学に行った時は、I T C, C I T。
佐藤教育長	I C Tですね。
佐山委員	その展示会をやってたんですよ。業者が来て。すごいですよ。プロジェクターを使ったやつと電子黒板を組み合わせたやつで、授業をどういうふうに改善していくか提案あったんですけどね。それを見てもね、これに対応しなくちゃいけないのかって感じて見てきましたけども。むしろ子どもたちの方が、今タブレットとかスマホとか持ってて、その使い方が簡単に進んでるという感覚は、私も持っていますので。非常に角田市としても焦っているんです。すぐにでも対応しなくちゃいけないんじゃないのかなって考えています。
佐藤(笑)委員	川崎町では昨年ですね。総合センターで研修した先生がいるんですよ。その先生を中心に各学校に行かせて、研修会をやる方向でいます。それから、各学校から要請があった場合は、その学校の先生を派遣っていうか、現場で授業を教えている先生たちもそういうふうに学校長さんに配慮をして進めていくつもりでいます。
佐藤教育長	実は私もね、先々週は新地の委託事業をI C Tの、I C Tで活性化しようと協働の中に。佐山委員がお話しされたように、授業をですね、4個見てきました。クラスには3人ついているんです。うちの方でも指定研究ございまして、その中で40代の60人くらいの先生がパソコンを使った模擬授業をしたんですけども、非常に反応が強かったんです。そういう流れがあるものですので、視聴覚教材センターは今までの記録とか、視聴覚教材の保持と維持をして、その延長上で発展させるとか、それとも情報端末とかにも視野を含めていくのかという、こういう問題もあるんですね。古い記録とかに特化していてもいいのかという問題もあって、ここにいる委員の皆様方にも、そういうふうに親の方が進めるのだから視聴覚教材センターなんてなくしてもいいんじゃないかという話になっているわけですよ。そういう質問がかつて受けたことがあって。ですから、そこのところにですね、情報の最先端をいくというもう少し視野を広げて、予算化する必要があるのかどうかということもですね、今後の宿題にして、これから引き続きですね、事務局と委員の皆様のご意見を賜りながら、進めてまいります。では、以上でこの話は打ち切りますけども、よ

佐藤教育長	ろしいでしょうか。 くはい>との声
-------	----------------------

9. 議事

議案第1号 平成28年度仙南地域広域行政事務組合視聴覚教育事業計画(案)・仙南広域圏の振興発展に資する事業計画(案)について

仙南地域広域行政事務組合視聴覚教育事業計画(案)については水戸教育次長及び黒澤主幹より、仙南広域圏の振興発展に資する事業計画(案)については二階堂主事より、別紙資料2にてご説明申し上げます。

(質 疑)	
川島委員	ちょっとお伺いします。
佐藤教育長	はい。
川島委員	視聴覚教育指導員はそれぞれ選ばれているんですが、その人たちの利用差、利用度と言いますか、どの程度この方たちが各地区に戻って、色んな地区で指導されているのかっていうことは聞いたことがありませんか。
黒澤主幹	うちの方で会議の度にですね、今日指導員を通じて、新しい教材はもちろんのこと、今まで買った教材につきましても、できるだけ利用していただきってことで、指導員が関わっている事業もあるんですが、それを含めて教育委員会の事業とかで使える教材とかがあったらということで、PRはしているんですけども、直接的にはちょっと。なるだけその年度内に買った教材は、指導員は必ず1回は見てくださいとお願いはしています。そうしないと、買ったのに使われないのではあれなので。
川島委員	任務分掌になったから、ここの会議に來ただけの方もいるのでしたら。前にご一緒した人が興味はあるんですけど、忙しいといったところがあるもんですから。
黒澤主幹	なかなか長い方じゃなくて、最近は何人の方が來られるのが多くなってきて、そもそも今の視聴覚教育の歴史というか、流れとかは分からないで來ているので、その辺もある程度説明していかないと、本人も何をやればいいのかというところが分からないので、その辺は來年度からはちょっと気を付けていきたいなどは。
川島委員	先程のタブレットの話と関連になるんですが、こういう方たちが、たぶん興味のある人が選ばれてくると、この人たちがまず使い方とかなんかを開発するんですよ。そうすると、その学校にはぱあっと広まって、使おうっという雰囲気が出てくるんですけど、誰もとっかかる人がいないと、なかなか学校は使わないですよ。だから、均一で全員に渡しても無意味だというふうに思うんですね。だから白石のも1つの方法だなど。やる気のある学校から借りてやる。皆に平等に1人1台なんてする必要はないというのが、現在の段階ではそんな感じかなと思っています。学校の雰囲気とかムードとかができてないと難しいかなと。それにどの程度、教材センターが関わっていくのかというのは、先程教育長さんがおっしゃっていたこととは別次元で考えていくことなんでしょうけども。ちょっとお聞きしたかっただけです。
佐藤(笑)委員	私も川島委員さんと同じ意見です。やはり広めていくには、やはり自分自身が、担当が、あるいは先生方が、興味関心を持って、自らやっという意識がなければそれが広がらないのではないかなというふうに、実際私は思っています。例えば視聴覚、こちらの広域のセンターさんなりが川崎町で何月何日にこういったこ

佐藤(美)委員	<p>とをやります。各学校さんから1名とか。川崎町のどこどこ学校を会場にしてっていうふうになれば、出て学ぼうというのが広がっていくのかなと。例えばですね、人を集めるというのは難しいんですよ。色んなことをやりたいと思ってね。例えば川崎でね、やる協働教育で地域の人にたくさん子どもたちはお世話になっているじゃないですか。そうしたことで、地域に還元したいということで、各学校さんでやれる範囲の中で、こうした視聴覚も含めて、タブレットも含めて、所謂パソコンで年賀状を作ることも含めて、広報で流すんですよ。そしたら、先々週だったか、ある学校さんでタブレット関係のね、地域に呼びかけたところ、1名しか来なかった。でも、1名でも良かったと学校では言っている。そういったところから、口コミでね、あそこの学校に行ったら、こういった研修を受けた。そこから、何かあったときに行こうねって少しずつ広がっていくのではないかと。人数少なかったけども、やった意義は大きいですって、その校長先生は言ってたんですね。最初から多くを望まないというの、少しずつ少しずつ。そのためにも、担当者なりが、学校関係者なりが興味関心を持って、今その時代が来ているんだって意識を持って取り組んでいくということが、大事なのかなと思います。</p>
佐藤教育長 佐藤(茂)委員	<p>他に関連のことで何かありませんか。はい。茂廣委員。</p> <p>分かんないことでの質問ですけども。すごくいろいろな事業をね、視聴覚にしても、振興にしても、本当にすごいなと思って聞いているんですけども。確認と次年度の、もしあればですけども、重点、特にこれを力入れてやっていくとか、目玉とかありますか。もしあったら、頭に入れておきたいなと思います。</p>
黒澤主幹	<p>基本的にはですね、教材の利用を進めていくというか増やしていくというのが大前提になってくるんですが、それに繋がる、少しでも地元の地域に関わる映像保存を今のうちに進めたいというのがあります。私共だけではできないですから、各市町さんと一緒にやっていきたいなということで、そのために高いお金を使って、カメラも購入しましたので、それを使ってですね、記録をしていって、今年度私が関わった、事業経過でご説明したかと思うんですが、丸森町さんの昔話であったりとか、大河原町さんの小山田やすとこであったりとか、話し手であったりとか、踊り手さんが高齢のために、なかなか年経ってしまうと、というところがありまして、今なんですね。今、やっぱり撮っておかないとっていうことがあるので、撮っておけばですね、編集はその後、時間をかけてゆっくりできますので、とりあえずいなくなってしまうからでは撮れないんですね。各市町の事情もございますが、うちの方でもいろいろと協力していきたいと思いますので、その辺ですね。それが実際自作教材とかに繋がっていけば良いなと思いますし、あといろいろ出前講座をさせていただいているんですけども、先程、佐藤教育長さんがおっしゃったような、各町に出向いてですね、そのときでも地元の教材とかをPRできるんですね。そういった形でお話もできるものですから、その辺も含めて進めていきたいと思います。以上です。</p>
佐藤(美)委員	<p>前回の教育会議が終わった後で、私、職員にこういったことをね、電話して聞いて、見て、やってみてはどうなのと声かけてみたんですよ。少しありましたか。</p>
黒澤主幹	<p>はい。講座関係は頂いていて、実施しましたけど、地元の教材関係はまだ。</p>
佐藤(美)委員	<p>そういったことも、やはり映像でね、残していくというのが大事なんだよと声かけたんですよ。もう少しね、その辺を働きかけていきたいと思います。</p>

黒澤主幹	はい。うちの方でも指導員がいらっしゃるものですから、そちら通じてお願いはしてるんですけども。
佐藤教育長	私の方からなんですけども、昨年度から今年にかけてですね、AZ9のアウトリーチってことですね、水戸次長からかいつまんで説明してもらえると。
教育次長	はい。今年度から、昨年度からのお話をさせていただいてますけれども、アウトリーチなりワークショップをやっていこうということで、少しいろいろ事業を始めてございます。先程、お話ししたように9頁のところでも来年度も継続して実施しますが、AZ9ワークショップ事業。これは夏休みを利用して、通年で参加はしなくても4日間、とりあえず体験的に参加をしていただければ、短い時間ですけれども、いろいろな体験をしていただけるだろうというのが新しい事業です。今年度もこの中から2名、AZ9ジュニア・アクターズに追加で参加した子どもたちがいます。それと同時にアウトリーチ事業、これはAZ9のジュニア・アクターズの子どもたちがお年寄りの施設に行き、若干踊りなり歌を披露して見ていただくと同時に、お年寄りと交流してくるという事業を、これを来年度ではさらに充実させてもっとやっていきたいと思っております。それらは演劇やダンスをしてスキルを磨く、あるいはコミュニケーション能力を磨くこともとても重要なんですけども、さらに新しい、お年寄りとの交流はなかなか、今ないものから、そういったところに行き、お年寄りとの交流する意味はとて深いと思っております。特にお年寄りの方々というのは、子どもたちが来るだけで、十分に喜んでいただけるんですね。たくさんの方に喜んでいただくという機会も、子どもたちにとってはとても重要なことだと思いますので、この辺はどんどん充実させていきたいと考えております。
佐藤教育長	ありがとうございます。各小学校にですね、プロの指導者が行ってですね、そしてアウトリーチしながら学習発表会の。
教育次長	それはAZ9事業ではなくてですね、え、この方のアウトリーチ事業で、昨年度ですと、枝野小学校に全体で10回から20回くらい、プロの演劇の指導者の方を連れて行ってですね、最終的には全体的な学習発表会、すべての学年を通した学習発表会をやったんですけども。それを作るための様々なワークショップをかなりの回数でやって、最後に大きな発表会をやったというのがございます。
佐藤教育長	高齢者のためにと視野も広がっているんですけども、丸森の齋理幻夜に来ていただいたり、AZ9ですけども。それから、数日前のてれまさむねにAZ9の主力メンバー、全員ではないんですよ。10何人か。大河原の子どもたちだけ。
二階堂主事	一応、全員なんですけど、踊ったのが21期と22期で、23期は一緒についてきている感じだったんです。
佐藤教育長	ああいうのも、非常に大きな自信だとか、テレビに出演したというね、子どもたちがすごく成長するっていうね、そういう機会をとられたというのが良いんじゃないかと思っておりますけれども。他に何かございませんでしょうか。
川島委員	はい。
佐藤教育長	はい。
川島委員	教材センターの方で、出前講座を少し力を入れてやるということで、だいぶ大変なことなんですけども、地域に出かけて行って出前講座をしていただいたことで、今年1年目です。1年目でプレゼンテーションだとか。今年もやってみて増えるようだといいんですけど。ただ大変ですね。ここで開けば来てくれるという

川島委員	わけでもないのです。
黒澤主幹	そうですね。今年度は日曜日を一応、開催ということでやってきたんですが、いらっしゃるのシニアの方がやっぱり多いんですね。やっぱり時間がある方というか。どうしてもって方は呼んでくださいという、ここ空いているので来てくださってというふうなのがあってですね。打ち合わせをして、出向いて、実施しているものですから。また、そこから受けていただいた方がまた受けたいとかですね。あと、他の団体さんにご紹介だとか、いろいろな広がりがあるものですから、大変という一応そのやってですね、いろいろそういうふうに、ひいては教材制作とかそっちの何か関心があるのに繋がっていけばいいなと思ってやってはいるんですが。
佐藤教育長	このことについては、よろしいでしょうか。
川島委員	はい。
佐藤教育長	他にはありませんか。では、質疑ないものと認め、承認いたします。

議案第2号 平成28年度仙南地域広域行政事務組合仙南芸術文化センター事業計画(案)について

水戸教育次長より別紙資料3にてご説明申し上げます。

(質疑)	質疑なし。
佐藤教育長	まず、1頁でございますが、基本目標からの辺りですね。え、こホールをどういうふう運営していくかというコンセプトがここに書かれています。非常に今年は20周年ということもあって、内容がですね、世界の窓ということもありますので、1頁についてご質疑ございませんでしょうか。基本目標が今までの総決算というか、こういう広い意味で感じられて、非常に嬉しく思います。では、2頁の方ですね、こちらから最後までということ、何かご質問ございませんでしょうか。20周年記念事業につきまして、何かご質問ないでしょうか。
佐藤(笑)委員	20周年の記念事業に相応しいような内容で、見てみたい、聴いてみたいという思いに駆られるような内容で、今感心しております。
佐藤教育長	これからいろいろな方々のご意見を聞きながらまとめるということでございますね。3頁、4頁についてもよろしいでしょうか。では、質疑ないものと認め、議案第2号について、実施いたします。この内容で実施いたします。

10. 仙南地域広域行政事務組合視聴覚教材センターの愛称について

仙南地域広域行政事務組合教育委員会事務局及び視聴覚教材センターが仙南芸術文化センター(えぞこホール)内に移転することに伴い、より住民にとって親しみやすい施設を目指すため、愛称を一般公募で募集を行った。愛称の募集は平成28年9月の初めから開始し、平成28年11月10日まで行ったところ、171件の応募があった。その後、視聴覚教育指導員会議、仙南地域の社会教育等主管課長会議で意見を頂き、投票を行った。そこで得票のあった44件の中から、今回の定例会にて協議を頂き、愛称を決定したい旨をご説明申し上げます。

(質疑・協議)	
佐藤教育長	これは決定すれば、来年度からですか。
教育次長	準備が整い次第と考えております。できれば、来年の頭に移転しますので、そこから使えればと考えております。
佐藤教育長	来年の頭という1月。

教育次長	1月4日からですね。
佐藤教育長	こういうネーミングは川崎町の佐藤芙貴子委員が上手じゃないかと思って、どうでしょうか。ご意見など頂ければと。
佐藤(芙)委員	得票が多いね、アイヤ仙南というのはちょっと何となく、メディア仙南というも仙台にあるから。この中で、得票が多いから言うんではないけれども。
佐藤教育長	1番というのが意見でございますでしょうか。
佐山委員	質問いいですか。
佐藤教育長	はい。
佐山委員	この備考の欄にあるのは、要するに他にあるということですね。インターネットで検索すると出てくるやつですね。同じ名前はまずいよね。
佐藤(芙)委員	こういう聞き方は失礼なんですけども、事務局側として、いろいろ皆さんからのね、このリストを見ていたときに、事務局としての職員さんの中で、そういった話題とかなかったんですか。
教育次長	いろいろ話はしてありますが、1つはやっぱり親しみやすい名前が良いんですね。具体的な話を差し上げると、電話に出て喋ったときに、語感ですか。それは職員としては重要かなと思っております。喋りにくいか濁音が多いとか、聞いたときの語感と言いますか、それはちょっと大きいかなと考えております。決してどれが良いという話はあまり。あとは、オリジナリティですよ。他にない名前というのが、1つ重要かなとは思っております。
佐藤教育長	では、佐藤茂廣委員は何かご意見ありますか。
佐藤(茂)委員	これ事前に頂いたとき、あずなびあっていうんですか、その理由がね、すごく納得したんですよ。AZ9というのものもあるし、親しみやすいのかなと心の中では思っておりました。以上でございます。
佐藤教育長	それでは、川島委員はいかがですか。
川島委員	私は、皆さんが良いって言う、得票数みたいな、応募したからには発表するんですよ。いきなり決まりましたって。
教育次長	今、予定しているのはですね、要綱の中では最優秀1点と優秀賞3点程度としてますので、これを1つお選びいただくような流れにしたいなと思っておまして、こちらの最優秀賞が採用された作品ですよと発表。点数は載せずに、発表するとしたら、こういう経過を経て選定しましたという経過を発表すると思うんですが。
川島委員	このあずなびあは、あずなびあですか。それともあずなびあですか。
教育次長	びあです。
川島委員	この括弧内のことにしたいということですか。それとも全部ひらがな。
教育次長	これはどちらでも良いという考え方だったかと思えます。その辺も含めて、ご協議いただければと思います。ひらがなが良いのか、ちょっと欧文を入れたほうが良いのか。
佐藤教育長	川島委員としては、どれだっていうことではないんですね。
川島委員	仙南メディアセンターっていかにもはっきり分かって、目的がどういうことをする場所か分かるんだけど、芸がないっていうか。つまらないなというふうには思ったんですが。どういうところか説明するときに、括弧して仙南メディアセンターみた

川島委員	いにすることはあっても、これがタイトルになんない方がいいかなと思って。あずなぴあ、なぴあですよ、英語からだ。
佐藤教育長	ナビとビジュアルが合わさったぴあ。私はユートピアのぴあだと思ってたんですけど。では意見としては。
川島委員	この濁音が多いのはどうでしたか。私はこれ押しかなと思ってたんですけど。電話で言ってみて、全部訛って聞こえてくるのかと。でも、それ以外のものについては、どれも素晴らしいんですけど、どれがってはっきり言えないので、やっぱり数が多いあずなぴあが良いかなと。
佐藤(笑)委員	字数的にちょうど良いですよ。あまり長いとね。
佐藤教育長	そうですね。仙南メディアセンターだと字数的が多くなるけど。
川島委員	3番のまなぴぱるとするのは、発音しづらいかなと思ったんですけど。
佐藤教育長	それでは、あずなぴあという声が多いんですけど、佐山委員は。
佐山委員	私もそれで良いと思います。発音的にも良いじゃないかと思えます。あんまり濁音に拘ってしまうと、拘らないような作りだと、何だか上ずってしまうような感じがして。これだとかえって、重厚感があって良いと思うんですよ。理由もしっかりしていますし、1回頭に入るとなるほどなって感じ。今の人たちはカタカナ用語はね、非常に受け入れやすいですから。ただこれね、どっちにしようかと思って。今、川島委員さんからきたのは、AZなぴあが良いのか、ひらがなだけが良いのか。それで今、悩んでたんですけど。AZって言うとだいたい大河原という感覚は広がっているんで、どっちにしようかなというのは悩みの種。私はひらがなだけの方でも良いかなって感じはするんですけど。そういう意見でございます。
佐藤教育長	今の意見をまとめてですね、票に5プラスという感じでしょうか。
教育次長	進め方はぜひ皆さんのご意見でと思っていたんですが、もちろんと得票を加えて、さらに協議をしてもらうのも良いかと思うんです。必ずしも得票数だけでなくとも、やっぱり最終的には協議で良いと思います。
佐藤教育長	では、この上がってきた得点の多いところで賛同してくれている人が多いことも含めて、今の意見でまとめていくと、あずなぴあで良いってことで、この決議でよろしいでしょうか。これについては、理事会等もあるのしょうから、また上の段階もあると思うので、教育委員会としてはこういうことで進むということで、まとめてよろしいですか。
教育次長	はい。ここで決定をして、理事会には報告という形になるかと考えております。ですから、ここでは皆さん、各委員さんがこれで良いということに決定していただければ、それでもう進めていきたいと思えます。
佐山委員	2, 3, 4はそうすると。
教育次長	先程、お話ししたように、最優秀賞1点に優秀賞が3点程度ってなっていますので、3点まで選ぶか、あるいは2点なら2点でも構いませんので、そこをぜひお選びいただければと思います。
佐藤教育長	最初の募集要項で3点と書いてあるんですね。
教育次長	そうですね。3店程度と書いてあります。2, 3点ということになるかと思えます。優秀賞ですね。
佐藤教育長	機械的に上から3点選べば問題はないと。

佐藤(笑)委員	アイヤ仙南ていうのはちょっと。
佐藤教育長	3番目の何だかばるってというのは、仙台の東口だかに何だかばるってあった気が。めるこばるでしたっけ。
佐藤(笑)委員	めるばるですね。
佐藤教育長	そういうのと、ちょっと。友達というね。今の3点にしたらいいか、他に抜いたらいいか、ご意見お願いしたいかと思えます。まずはあずなびあということで決定。それからその最優秀と佳作になるんですかね。その3点についてですね。募集要項に書いてあるとおりにするとすると、2, 3, 4でよろしいでしょうか。
川島委員	でも、4は企業名であるんですよね。そういうのは外した方が良くないかなと。
佐藤教育長	4番, 5番目もあるんですよね。他のところの盗作というか、それを抜かなくちゃいけないですね。じゃあ、6番目になりますか。
佐山委員	2つで良くないですかね。
佐藤教育長	そうですか。2つで良いという意見もありますけども、2つでも良いんですか。程度ということですが。
教育次長	はい。良いと思えます。
佐藤教育長	じゃあ、2つって意見も出たんですけども。
佐山委員	惜しいなっていう理由で選ぶのは良いと思うんですけども、1位が圧倒的にすごいねっという選び方なので、どっちかなと分かれたのなら良いような気はするんですけども。
佐藤教育長	それは2, 3というを選んだ方が良いという意見なんですけど、よろしいでしょうか。
	<一同うなずく>
佐藤教育長	はい。それでは、これは何賞ってことになりますか。
教育次長	優秀賞ですね。
佐藤教育長	では、1点がナンバーワンで最優秀賞, 2, 3が優秀賞ということで決定します。
教育次長	1番なんですけれども、標記の問題ですね。ひらがな表記とAZを入れた混ぜ書きの表記とどちらがよろしいでしょうか。
佐藤教育長	これは両方できたのを、合わせてやったんですか。それとも、あずなびあって書いてきた人がいたんですか。
教育次長	1人です、これは。一応、どちらの表記でも良いですよというように。どちらかを選んでいただければ、そちらで決定にしていきたいと思えます。
佐藤教育長	この2つの選定については、いかがでしょうか。ご意見をお願いします。
川島委員	AZ9がAZと9だから、AZなびあが良いかなと思ったんですが。
佐藤(笑)委員	佐山委員さんもお話になったんですよね。
佐山委員	どっちが良いかなと思ったんですよね。
佐藤(笑)委員	そのまま、ひらがなが良いのか。
佐山委員	初めての人は、AZって書いてあるとどう読むのかなってあるよね。だけど、そのことが逆にあずなびあって読むんだってなると、印象付けることにはなりますよね。

佐藤教育長	でもね、多くの人に最初の印象で、あれ何て読むんだべって刺激と言いますかね、AZっていうのもあれかもしれないですね。愛称は意味付けよりも、例えば頭に入るのは単純な方が良いのかなと。ちょっと凝ってしまってね、AZ9っていうのもあれだけど、初めて公演聞いた人はAZ9って聞いて初め分かるような。格好いいかもしれないけど、どうなんでしょうね。
佐山委員	両方使ってもいいって言うんでしょ、結局。駄目なのかな。表記上。
教育次長	使ってもいいんでしょけど、どちらかにしないと。
佐藤(笑)委員	どちらかにしないとね。今後もずっと親しまれるためには、統一性があつた方が良いのではないかなと。
佐藤教育長	耳に残る、小学生でも分かる手法で表記するとしたら、AZなびあと書いて読ませるよりは一発で分かる方が良い気がするんですが。情報のやり取りとして。
佐山委員	表題に使うとか。
佐藤教育長	AZ9から出てきた訳ではないんですよ。もっと広い意味で仙南の広域のえぞこホールの視聴覚の。
佐山委員	AZ9とナビゲーションの組み合わせでしょ。
佐藤教育長	AZ9というのは、2市7町の。
教育次長	阿武隈と蔵王ですね。阿武隈、蔵王の圏内の9市町ということで、AZ9ということに。
川島委員	阿武隈、蔵王ね。アルファベットのAから最後までって意味で考えてて。
教育次長	もちろん、AからZまで、アルファベットの最初から最後までということで、いろんなことを網羅しているという意味合いも含んでるってことですね。
佐藤教育長	AZ9というのは子どもたちが、AZ9アクターズで。
教育次長	子どもたちはAZ9ジュニア・アクターズであつて、AZ9という言葉自体は、仙南の圏域を表す言葉になっています。
佐藤教育長	そうすると、そのまま活かしても良いのかな。カタカナでやったらどうか。でも、趣旨からすると怒られるかもしれないから。どうでしょう。
川島委員	出した人がひらがなを最初にまず書いて、何ならAZでも良いよって書いてきたんだつたら、ひらがなの方が良いのかな。これはどのようにこちらが変更しても良いというような条件でしたか。
教育次長	言葉は1つなんですけど、表記は2種類書いていただいたということなんで、どちらを選んでいただいて良いかと思います。
佐藤教育長	それじゃ、アルファベットプラスひらがなっていうんじゃないかと、単純にですね、ひらがな表記でよろしいですか。
	<はい>との声
佐藤教育長	はい。ということで、ひらがな表記でいきましょう。

11. 次回教育委員会定例会の日程について

佐藤教育長	それで、平成28年3月22日午前10時ということで進めます。
-------	--------------------------------

12. その他

- 平成27年度仙南地域広域行政事務組合教育費補正予算（第2号）について

水戸教育次長より別紙資料5にてご説明申し上げます。

(質 疑) 質疑なし。

- 平成27年度仙南地域広域行政事務組合仙南芸術文化センター特別会計補正予算（第2号）について

水戸教育次長より別紙資料6にてご説明申し上げます。

(質 疑) 質疑なし。

- 平成28年度仙南地域広域行政事務組合教育費当初予算（案）について

水戸教育次長より別紙資料7にてご説明申し上げます。

(質 疑) 質疑なし。

- 平成28年度仙南地域広域行政事務組合仙南芸術文化センター特別会計当初予算（案）について

水戸教育次長より別紙資料8にてご説明申し上げます。

(質 疑) 質疑なし。

- 第38回仙南地区自作視聴覚教材発表会について

黒澤主幹より資料9にてご説明申し上げます。

平成28年2月9日の午前9時半より、仙南芸術文化センターの会議室で開催する。現在、6点ほどの作品の出品見込みがある。

(質 疑) 質疑なし。

- AZ9ジュニア・アクターズ公演事業について

二階堂主事より資料8にてご説明申し上げます。

第23回公演を迎えるAZ9ジュニア・アクターズの公演名はザオーランドカウガール。日時は平成28年2月13日と14日の午後2時からで、会場は仙南芸術文化センターの大ホールである。

(質 疑) 質疑なし。

13. 閉 会 午前12時03分

上記の会議の顛末を記録し、その内容が真正であることを証するためにここに署名する。

平成28年3月22日

教 育 長

署名委員